

令和7年度 庄原市研究主任研修会

令和7年6月18日（水） 庄原市総合体育館

研究主任が校内研修の充実を通じて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためのリーダーシップを発揮できるようにすること、教師の学び合いを支える校内研修の在り方を検討し、全教職員の授業力向上と学校全体の教育の質の向上に資する体制づくりを推進する視点を養うことを目的に研究主任研修会を実施した。

【講話・交流】「各調査等の結果を踏まえた各校の取組」

庄原市教育委員会教育指導課 指導主事 福原 理恵



- 各種学力調査の問題を指導者が解いてみてどのような力が求められているかを把握し、児童生徒のつまずきを見取り、改善策を講じることが重要。各種学力調査後の主体的な指導改善、取組を全教職員で実施する必要がある。
- 令和9年度のCBT導入に向けて、ICT機器の活用を各校で計画的に始める必要がある。タイピング能力の向上等も求められる。

【講話・交流】「研究主任の役割と効果的な校内授業研究会の実施」

庄原市教育委員会教育指導課 指導主事 小原 義史



- 研究主任は、①研究推進計画の立案・実施・まとめ、②研究推進に係る連絡調整・体制づくりの大きく2つの役割がある。
- 学校自体を教師の学びのコミュニティと捉えて機能させていくことが重要である。研究授業を中核として授業改善を図り、児童生徒の資質・能力の向上に管理職、研究主任がリーダーとなり全教職員で取り組む必要がある。

【参加者の感想等】

- 学力調査等の結果を踏まえた授業改善に向けて、児童が目的をもって学ぶことができるようにするために、ゴールの姿を児童生徒と共有していくことが必要であると感じた。
- 児童生徒の読解力、資料の読み取りに課題がある。他校では、朝の時間に新聞記事の読み取りをしていると聞いたので活用したいと思った。また、授業の中で児童生徒が教科の見方・考え方を働かせたり、専門用語を用いて説明したりすることができるよう、指導改善することが必要であると感じた。
- 授業構想を練る際は、単元づくりから職員全員で話することによって、研究の方向性を確認し、共通認識を図ることが大切だと感じた。その視点を日々の先生方との会話でも意識したい。
- 効果的な授業研究のために事前に児童生徒の姿の共有、課題意識の共有をしておくことが大切だと感じた。自校の実践に取り入れたい。
- 全教職員が教科関係なく、自分事として捉え、効果的な研究が行えるように取組を進めたい。